

Let's Long Swim!!



7月7日 授業研究会(6年) 指導助言 高知市立横内小学校 山本儀浩 校長

<自分の課題を知る → 課題や場を選び挑戦する → コツを意識して続けて長く泳ぐ>

教材デザインの工夫

・泳ぎのポイント共有後、課題別練習の時間を設定 ・競争ではなく、集団の高まりを意識させる

かかわりデザインの工夫

・バディやグループで話し合う(異質・同質) ・シンプルで分かりやすく、キャッチーな言葉で共有

フィードバックデザインの工夫

・児童の様子を見取り、ポイントを広げる ・「見る・支える・知る」ができた児童を評価、価値づけ

技能ポイントの効果的な伝え方(ICTの活用)、課題に沿った活動の設定、課題解決の術を学ばせる単元構成に取り組んでいくこと等の大切さに気付くことができました。

体育授業、あなたならどう創る!?



水泳は水中での運動であるため、自分の動きを確認することが難しくなります。自分がめあてとする動きのできばえをバディで見合い、アドバイスし合う「バディ学習」が有効です。水泳学習でこそ、「できる・見る・知る・支える」体育科としての資質・能力を育てる授業構成を考えていきましょう。

学習の勢いと雰囲気を大切に【体育授業心得五か条】

- 一、豊富な運動量と響く子どもの歓声を心がけるべし
- 一、からだ育てとこころ育てを貫くべし
- 一、「いつでもどこでもだれとでも」を合言葉とすべし
 - 一、先生の働きかけによって「運動好き」に誘うべし
 - 一、「教材を教える」でなく「教材で教える」べし

活動意欲や学び方、習得状況、身体操作、なかまとのかかわり等を手がかりとしながら子どもを見取り、学習成果と次への課題を子ども自身につかませていきたいものです。

【水遊び・水泳運動】の学ぶよろこびを感じ、運動好きな十津っ子に伸びていくために…

1時間の授業の何を学び（成果）、これから何をがんばる（課題）のかをつかめているでしょうか!?



導入：子どもの心と体のスイッチオン！いつでもどこでもだれとでも！

あいさつ（準備運動） シャワー バディ整列→確認 入水 水慣れ

展開：グルーピング+課題設定(子どもの意識の流れ)

低：十分に水に慣れ親しみ、水中での動きを楽しく身に付けること

中：泳法につながる初歩的な泳ぎを楽しく学ぶこと

高：心地よく泳いだり、泳ぐ距離を伸ばしたりする泳法学習

活動①() 活動②() 活動③()

まとめ：目標達成・がんばり・学び方・かかわり…見方・考え方

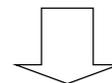
ふりかえり→今の自分の現在地を知り、次の目標を明確に持つ

「楽しい できそう いっしょにもっと!」という児童の思いを大切に
にした指導展開の中で大好きだった水遊びをしていたら、自然に
泳ぎに必要な動きや知識が身について水泳学習が深まってい
た…としていきたいものです。

「楽しい できそう いっしょにもっと!」という児童の思いを大切に
にした指導展開の中で大好きだった水遊びをしていたら、自然に
泳ぎに必要な動きや知識が身について水泳学習が深まってい
た…としていきたいものです。

水遊び

・プールでダンス・ぐーすけじゃんけん・水中走り・水のかげっこ・電車ごっこ・顔つけ・息こらえ・息はき・ワニ・カバ・カニ・壁につかまって息こらえ・鬼遊び・顔つけ・バディでの手や股くぐり・ジャンケン股くぐり・壁につかまって浮く・いかだ引き・宝探し・バブリング・ボビング・変身浮き身・ダルマ・クラゲ・大の字・イルカジャンプ・洗濯機・ラッコ浮き・伏し浮き



泳ぎ

・蹴伸び・陸上やプールサイドにキックやプルの動き・バディでの観察・ビート板キック・ビート板プル・ストローク数・ブレス数を意識して・面被り・25m 時間泳・課題別練習コース

導入 → 展開 → まとめ の流れに沿って活動構成してみよう。

活動意欲や学び方、習得状況、身体操作、なかまとのかかわり等を手がかりとしながら子どもを見取り、学習成果と次への課題を子ども自身につかませていきたいものです。

令和2年度 警察白書より

R 2.9.10 警察庁発表

水難事故発生状況…令和2年夏期(7～8月の2か月)

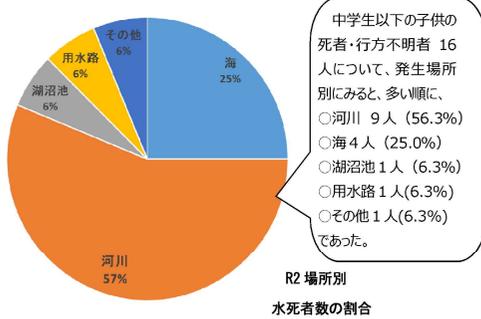
- 発生件数 504件 (+43件)
- 水難者数 616人 (+22人)
- うち死者・行方不明者 262人 (+23人)
- …過去5年間の水難発生状況を見ると、平成28年を境に減少していたが、今年は、増加に転じた。…発生件数の多い順に千葉29、静岡26、愛知・沖縄23であった。【高知県】発生件数8(うち子供3)水難者総数9(うち子供4) 死者4(うち子供0)



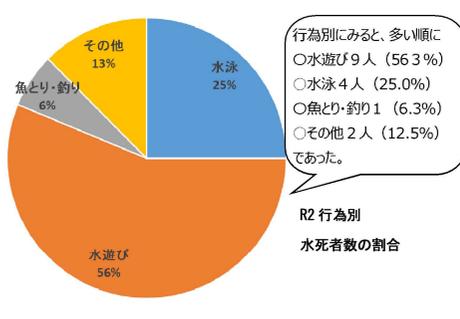
- 発生件数 60件 (-2件)
- 水難者数 101人 (-6人)
- 16人 (+2人)

	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	総数	子供	総数	子供	総数	子供	総数	子供	総数	子供
発生件数(件)	614	98	511	83	502	81	461	62	504	60
水難者(人)	735	132	647	130	595	117	594	107	616	101
死者・行方不明者	304	19	248	14	242	14	239	14	262	16
死者	295	19	241	14	237	14	237	14	260	16
行方不明者	9		7		5		2		2	
負傷者	147	32	125	35	116	32	112	29	73	15
無事救出	284	81	274	81	237	71	243	64	281	70

※警察庁「生活安全の確保に関する統計等」より



中学生以下の子供の死者・行方不明者 16人について、発生場所別にみると、多い順に、
 ○河川 9人 (56.3%)
 ○海 4人 (25.0%)
 ○湖沼池 1人 (6.3%)
 ○用水路 1人(6.3%)
 ○その他 1人(6.3%)
 であった。



行為別にみると、多い順に
 ○水遊び 9人 (56.3%)
 ○水泳 4人 (25.0%)
 ○魚釣り・釣り 1 (6.3%)
 ○その他 2人 (12.5%)
 であった。

水難事故防止のための指導

- 危険箇所の把握
魚とり・釣りでは、転落等のおそれがある場所、水泳や水遊びでは、水（海）藻が繁茂している場所、水温の変化や水流の激しい場所、深みのある場所等の危険箇所を事前に把握して、近づかない、近づけない。
- 的確な状況判断
風雨、落雷などの天候不良時、河川が増水するおそれが高いときには、釣りや水泳、中洲や河原でのバーベキューなどを行わない。海においては天候の変化や波の高さに注意を払い、海岸の地形や沖合で台風が発生している場合など、離岸流や高波が発生するおそれが高い時は、海に入らない。
また、体調が悪いとき、飲酒したときなどは、海、河川に入らない。
- ライフジャケットの活用
釣りやボート等で水辺に行くときは、必ずライフジャケット（体のサイズに合った物を選び、正しく）着用する。

○ 遊泳時の安全確保

- ・ 掲示板、標識等により危険区域と標示された区域内に入らない。
- ・ 遊泳区域を標示する標識、浮き等を移動し、又は損壊しない。
- ・ 遊泳区域以外の水域で遊泳しない。
- ・ 遊泳中、他人に抱きつくなどの遊泳上危険な行為をしない。
- ・ 遊泳に当たっては、水深、水流を考慮し、安全な方法で遊泳する。



○ 保護者等の付添い

子供の水難防止のため、子供一人では水遊び等をさせず、幼児や泳げない学童等には、必ずライフジャケットを着用させ、その者を保護する責任のある者が付き添うなどして、目を離さないようにする。

着衣水泳実施計画

ねらい ①水を吸った衣服の重みによって、また、衣服が体にまとわりつくことによって泳げる人でも体が思うように動かせなくなるのが分かる。(水・泳法・環境への正しい知識を)

②いざというとき、慌てない心構えを持つ。

③余分な体力を使わない泳ぎを見つける。(泳力向上の必要性を確認)



実施日時

	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時
7/14(水)	6-1	1-1	2-1	5-1	3-1	4-1
7/15(木)	6-2	1-2	2-2	5-2	3-2	4-2

※清潔な服で参加すること。ペットボトル・ビニール袋あれば便利。

〈5つのポイント〉

- ①大きな声で助けを呼ぶ。(安全最優先) ②泳げなくても大丈夫。(ラッコ浮き)
- ③無理して泳がない！(岸の近くなら落ちた場所に戻る。)
- ④どんな泳ぎが有効かな？ ⑤服は脱がない。

☆指導内容〈学習の流れ〉※例

	活動	学習内容
1	入水	衣服が体にまとわりつく感じを体験する。
2	水中ウォーク・ランニング	衣服や靴が水中での動作にどれだけ邪魔になるか体験する。
3	伏し浮き立ち	伏し浮きから立ち上がる。
4	クロール	いつも通り泳いだ後、ゆっくり泳ぐ。(感覚のちがいを)
5	平泳ぎ	いつも通り泳いだ後、ゆっくり泳ぐ。(クロールより泳ぎやすい)
6	Uターンと救助法	慌てず岸を確認して戻る。手や足などをのばして助ける。
7	ラッコ浮き	浮くものにつかまって救助を待つ。(体のどこにあてるか。)
8	水中で服をぬぐ	水中で服をぬぐることがいかに大変か体験する。
9	まとめ	感想発表・安全について・ゆっくり長く泳ぐ力をつけよう。

高学年では安全確保につながる運動との関連を図りながら積極的に取り扱う解説に書いてあります。